

アカデミアの ほっと一息



～教授室だより～

■新しい風が吹いた日

令和6年3月、新しい風が私のもとへと吹き寄せました。「市町村アカデミー」への派遣内示です。長年、千葉県職員として従事してきた私にとって、市町村アカデミーは未知の存在。戸惑いながらも、その役割を調べてみると、全国の自治体職員を対象にした研修機関。まさに地域行政の未来を担う人材を育てる、重要な機関だと知りました。

これまで千葉県の行政サービスのみに従事してきた私にとって、全国を視野に入れた業務は新鮮であり、大きなやりがいとともに大きな責任を感じ、自然と背筋が伸びました。

■清潔と静寂に包まれて

勤務地は千葉市であり、これまでの通勤経路の途中に位置しているため、生活スタイルに大きな変化はありませんが、初めて携わる業務やこれまでと異なる職場の雰囲気、ルールなど、環境面では大きな違いがあります。あらゆる点で初めての経験ばかりで、まるで「転職」したかのような新鮮さと緊張感を持って、新たな職場に足を踏み入れました。

着任してまず驚いたのは、施設の清潔さ。専門業者による清掃で常に研修に集中できる環境が保たれています。

また、東京にほど近い都市部にありながらも周囲に高い建物はなく、空が大きく広がり、鳥のさえずりや川辺のカモの姿に、心が和みます。

さらに印象的だったのが、施設内に整備された運動環境。天然芝の広いグラウンドや屋内運動場が整備されており、受講者や職員がキャッチボール、フリーバッティング、モルック、ランニング、卓球などでリフレッシュする姿が見られ、私も時折、球拾いの大役を担って楽しんでいます。

■誰かの明日を照らす灯に

私が担当している主な業務は、研修の企画・準備・運営です。具体的には、研修カリキュラムの編成、講師の選定、研修当日の進行管理、そして研修後のアンケート分析など多岐にわたります。これまでのキャリアでは関わることのなかった分野であるため、着任当初の心境は「期待2割・不安8割」でした。しかし今では、「どうすれば受講者のスキル向上につながるか」「意識改革を促すには」「受講者同士の交流をどう促進するか」といった視点で日々頭を悩ませながらも、学びの多い充実した時間を過ごし、「期待8割・不安2割」に逆転していました。

また、「この方にぜひ講義をお願いしたい!」と思った講師からご快諾いただけたときは、公務員人生の中でも指折りの喜びです。また、研修後のアンケートで、「とても勉強になった」「明日からの業務に生かせそうです」「全国に仲間ができた」といったコメントをいただくたびに、研修担当としてのやりがいを強く感じています。

■地域の未来をつなぐ懸け橋に

市町村アカデミーでは、全国の自治体職員が年齢や役職を越

えて交流し、互いに刺激を受けながら学び合う環境があります。まさに、「学びの交差点」と言える場であり、ここで得た知識や人とのつながりが、各地域に持ち帰られ、それぞれの地域づくりに生かされていきます。

今後、それぞれの地域が互いの個性を尊重しながら切磋琢磨し、将来的には「住み続けたいまち」ランキングの上位を競い合う関係性になっていただきたいと願っています。

そして私は、いずれ派遣元に戻ったとき、この市町村アカデミーで得た知識や人とのつながり、視野の広がりが必ず生きてくると確信しています。

■私の「ほっと一息」

最近の趣味はキャンプです。

自然の中で過ごす時間は、すべてを忘れてリフレッシュできる、大切なひとときです。特に、テント設営前に飲む最初の一杯は、まさに「ほっと一息」つける瞬間。

ちなみに、「アカデミア令和6年秋号」の本コーナーで「DIYマイスターK」として紹介していただきましたが、実はキャンプギアの一部も自作しています。焚き火に照らされた「彼ら」を眺めながら、自分だけの世界に浸る時間。これもまた「ほっと一息」。



〈アカデミア担当職員からひとこと〉

私も市町村アカデミーへ出向している身として、共感できることばかりです。まるで転職したような気持ちになりますよね。キャンプの写真、DIYで作った品々、とても素敵です！